

横線左方長突出型と利き目・筆の持ち方に関する構想

成田格¹⁾森岡恒舟¹⁾加城貴美子²⁾

1) 日本筆跡診断士協会

2) 名古屋医専

kaku.hisseki@gmail.com

1. はじめに

文字を書く際には、ペンや鉛筆（以下筆とする）などの先の尖がったものを紙などに突き当てて文字を書いている。文字を書く際に尖った筆先一点に精神を集中させる為には、特定部分に集中した精神状態と同様に、神経は過敏な状態になっている。精神が過敏になった状態で書く文字の線質や線の長さ空間の大小は、書くときの精神状態（深層心理・行動傾向）に大きく左右されていると考えられる。

明治初期に西欧文化が取り入れられたが、異なる言語表現の相違で「筆跡学」は導入されなかった。1967年に黒田[1]が「日本文字の筆跡心理学に関する基礎的研究」、1981年に楨田[2]らが「筆跡とパーソナリティの関係についての実証的研究」がみられる。森岡[3]は、1980年ころより筆跡学に没頭し、1994年に「日本グラフィック協会（現・日本筆跡診断士協会）」を設立した。

その後、筆跡とパーソナリティについての研究はみられるが、筆跡学(graphology)を専門とした研究報告はみられない。筆跡診断の手法をよく理解されていない専門外者の論文は、一部の側面からみた研究結果、筆跡学の解釈と異なる基準によって検証されている。

筆跡は、人間の「書く」という行動の結果残された痕跡で、筆跡に表れた特徴は、書いた人の行動傾向の特徴を表し、行動傾向の特徴は、深層心理の表れである。

筆跡は、「書く」という深層心理だけでなく、「書く」という行為の利き手、視野（利き目）や持つ筆の持つ位置などが影響するのではないかと考えられる。

字を書くときには、前頭前野が働き、運動野に指令を出している[4]。つまり文字を書けという指令は、脳の前頭前野から始まり、運動野に対して電気パルスとして信号が送られる機序である。この信号の大きさは

人それぞれの思考・感情が違うように個体差があるため、身体反応である筆跡にも反映されると考えられる。

また認知神経科学や心理学の分野による知見の積み重ねによって、人の感情と身体反応の関連性がわかっている[5]。人間の脳内での感情と身体は連動するという機序があるため、精神状態が筆跡に反映され、筆跡の特徴となって現れるのも自然であると考えられる。さらに生理的作用によっても筆跡に現れるものもあると考えられるため、筆跡に関する実証的な研究はこれらの複数の側面を理解したうえで研究していく必要がある。

本研究では、視界ここでは利き目や筆の持ち方によってどう筆跡が変わっていくのかについての検証を行うことを目的とする。

2. 才子・才女の筆跡特徴

人は幼児期から文字を習い練習して、学校ではノートに学んだことを刻み勉強をする。社会人になってからも必要に応じて仕事で文字を書き、日常でも文字を書くことがある。

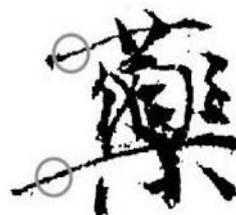


図1 聖徳太子

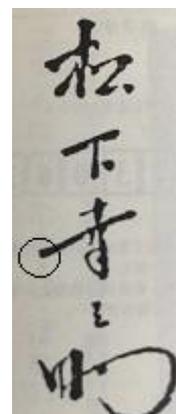


図2 松下幸之助

人が書く文字には人それぞれの個性・特徴といったものが様々な形で筆跡に表れる。

筆跡学では、「才子・才女・頭の回転が早い」など天才といわれる方に共通に表れる筆跡特徴がある。左側に長く横線が突出する文字の書き方である。

図1 図2 を筆跡学では森岡[6]の「横線左方長突出型」と呼ぶ。

図1は、聖徳太子が書いたとされる日本最古の肉筆書といわれる「三経義疏」[7]のひとつである「法華義疏」の中に、この書き方が頻繁に見られる。また、戦国時代では真田幸村に、図2は近代では経営の神様と呼ばれる松下幸之助、最近ではメジャーリーグで活躍の大谷翔平選手など、この筆跡特徴が他にも多数の天才と呼ばれる人物にみられる。

そこで、本研究では、筆跡学で才子・才女に多いといわれる筆跡特徴である「横線左方長突出型」がどのような身体状況や生理的状況に於いて優位に出やすくなるかについての関連性を考えていく。

3. 問題点

当研究対象となる「横線左方長突出型」は非常に希少な筆跡特徴となっており、現代人の筆跡を専門に診断している我々筆跡診断士ですら、みる機会が少ない。このような希少な筆跡特徴の対象者数を集める前に今回は左側への横線の突出である横線左方長突出型の筆跡がどのような生理環境によって表れるのか、発現機序について考える。

4. 目的

無意識に大きく左側に起筆（書き始め）を打つ筆跡を持つ才子・才女・天才は、何故このような筆跡特徴を書くことができるかについて、身体状況や生理的な側面、心理的な側面や脳との関係性に分け、ここではまず身体状況と生理的な側面について明らかにしていくため、以下の方針により研究を進めていく。

5. 方針

今回は身体状況や生理的な側面について考える。筆などで文字を書く際に、図1・図2のように自然と左側に長く突出した線を書くためには、以下の2点が生理的な影響が大きいと考え、検証を行う。

5-1. 利き目と筆跡の変化

手に利き手があるように、目にも「利き目」がある。人は目で感知した光の情報を脳で処理することで「モノ」をみているが、両目でみても脳には左右どちらかの目の情報を優位に認識するという特徴がある。これが利き目であり、専門的には「優位眼」と呼ぶ。利き目がどうやって決まるのかについては、まだ解明されていない。手の場合は、生まれてから左利き→右利き→両利き→左利きと、いろいろと変化しながら、最終的に8歳頃までに利き手が確立するのではないかとされており、目の場合も同様に時間をかけて利き目が決まると考えられている[8]。つまり、右目が利き目なら、右側の目を軸にして物を捉え、左目が利き目なら左目を軸にして物を捉えている。

利き目の確認は次の通りである。

「利き目の確認方法」[9]

1. 数メートルほど離れたものを、よく見る(たとえば、壁に掛けた時計を見る)。
2. 見続けながら、見ているものを指さしてみる(指には焦点が合っていないので、2本にぼやけて見える)。
3. この状態で、片目ずつ交互に閉じたり開けたりしてみる。片方の目は、しっかり見ているものを指さしており、もう片方の目は少しずれた方向を指さしている。しっかり指さしている方の目が「利き目」である。

上記より、文字を書く際の焦点も片方の利き目だけに文字の焦点が合っており、逆に利き目ではない方の目は焦点が合っていないことになる。

また、利き目が認知する視界範囲も大きく変わる。左目が利き目の場合、左目を軸にして文字を見て書くため、図3の例のようにハガキの丸で囲んだ場所に焦点を合わせていると考えられる。左側の視界に目や筆

を運ぶことは容易であるが、右側に筆を運ぶことは生理的に難しいと考えられ、大きく左側に起筆を打つことは有利な状況であると考えられる。

この利き目による視点から、図1・図2のように左側に大きく筆（起筆）を打ち込むには、利き目が左側でないかと推測する。

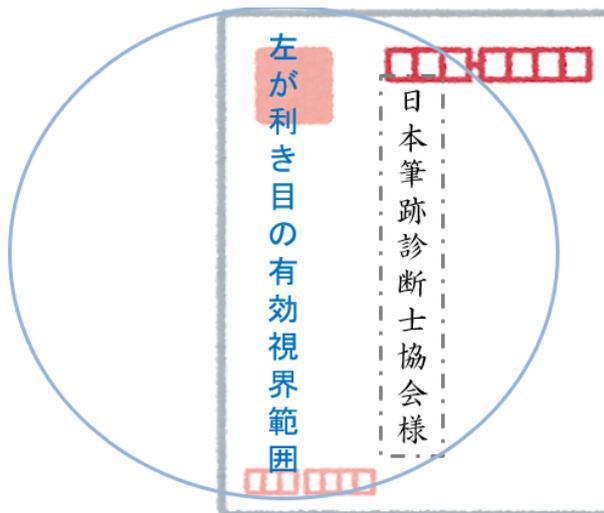


図3 官製はがきの筆跡時の視野

5-2. グリップの位置と筆跡の変化

筆を握る位置も重要になると考えられる。右利きで文字を書く場合、グリップの位置が高くなればなるほど、筆先が左側に寄っていくのではないかと考えられる。つまり筆を持つグリップの位置が高ければ高いほど、筆を左側へ動かす可動域が広くなり、グリップの位置が低くなればなるほど、左側への可動域は狭くなると考えられる。

6. 横線左方長突出型と利き目・筆の持ち方の実証構想

1) 対象: 同意の得られた18歳以上の日本語で官製はがきに宛名を日本語で書ける社会人

2) 調査内容:

①官製はがきに宛名を記載（横線左方長突出型の出る字を2文字入れる：薬、武、など）

②宛名書きをしている筆の持ち方の状況把握（前方左右よりビデオ撮影）

③利き目の確認（意識と実験の双方を実施）

④左脳・右脳の優位評価

⑤宛名書きをしている深層心理・行動傾向の質問紙調査

⑦属性（年齢、性別、職業、など）

3) 分析

①筆跡診断学の「文字」「章法」の分析

②筆を持つ位置の分析

③質問紙調査の集計

④横線左方長突出型と左脳・右脳、利き目との関係

⑤横線左方長突出型と①②③との関係

7. 考察

データが収集できれば、利き目と筆跡特徴の変化についての関連が明らかになると考える。また、筆を持つグリップの位置と筆跡特徴が明らかになる。

さらに利き目が左の方に、横線左方長突出型の特徴が多く見られる結果が出れば、左側の目が対応している右脳との関係性について考えられ、脳科学と筆跡との研究の検討が必要と考える。

また、情動の末梢起源説、あるいはジェームズランゲ説(1884~1885)[10]で有名なジェームズ James 説(1884)とランゲ説により、身体変化と情動反応の関連性の存在について述べている。これが正しいと仮定すれば、特定の筆跡を書くという身体反応からも情動反応（深層心理・行動傾向）が得られる可能性が考えられる。筆跡が我々の身体反応や感情反応にどのように関わっているかについて検証していく価値がある。

今後は、脳と横線左方長突出型の関連性や、さらに

情動や心理と筆跡との関連性についての研究へ繋げていきたい。

参考文献

- [1]黒田 正典 1967 日本文字の筆跡心理学に関する基礎的研究 東北大学 博士論文
- [2]槇田 仁、小谷津 孝明、伊藤 隆一、他 1981 筆跡とパーソナリティの関係についての実証的研究：I 慶應義塾大学シヤア医学研究科畿央 第21号
- [3]森岡 恒舟 日本筆跡診断士協会 http://sogeikai.com/1_shindan_top.html (閲覧2020年1月14日)
- [4]久保田 競 2010 手と脳 第2章 手と前頭葉 紀伊国屋書店
- [5]寺澤 悠理・梅田 聡 2014 内受容感覚と感情をつなぐ心理・神経メカニズム 心理学評論 Vol157 No.1
- [6]森岡 恒舟 2001 筆跡特徴マニュアル 株式会社相芸会
- [7]コトバンク 三経義疏
<https://kotobank.jp/word/三経義疏-70525> (閲覧2020年1月14日)
- [8] Johnson & Johnson K.K 利き目ってどういうこと？ どうやって決まるの？ https://acuvuevision.jp/gimon/vol11_4 (閲覧2020年1月14日)
- [9]NIDEK CO., LTD. Vol.8 利き目はどちら？ http://www.nidek.co.jp/eyestory/eye_8.html (閲覧2020/1/14)
- [10]コトバンク ジェームズランゲ説、ジェームズランゲ説 <https://kotobank.jp/word/ジェームズランゲ説-516571> (閲覧2020年1月14日)